新板
絵入

繁慎遊学案内

四巻之堂

特別
へ13
4338
4

へ13
4338
4

京堀川通
九屋市兵衛
大津屋橋上

初久出

繁情茶菓山

第一 布引山の歌ハ寒吃児

四し巻

目録

京都帝国大学図書

黒門通一條上町
藤屋半兵衛

<2003-020>

第二　琵琶湖の紅葉　石崇箱

夜やの秋清かつゝ金と竹夜の箱が一紅

こゝ結てうゝ出るんの弱七ゞ勢ぬけてゐる

極の口の盗人突ゝゝゝやりうの働さ

第三　芳川乃諫い逃謀士

立ゝゝゝ大樹の法ゝゝ紙てゝゝ行人の

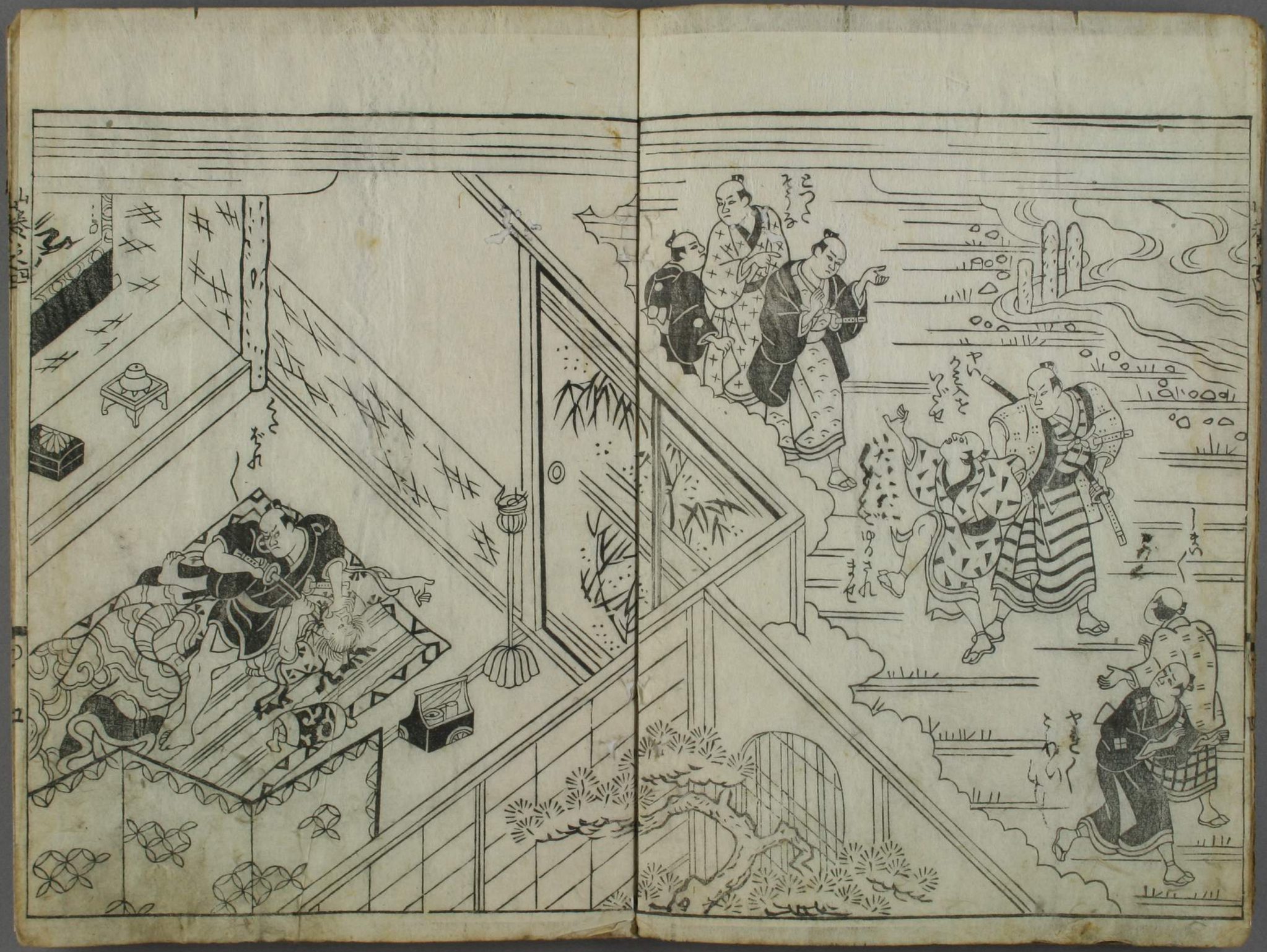
ゝゝ門その混か行ハ意の大網ゝ鼻毛の

ゝゝい話はゝゝ冠ゝゝ家ゝ面

第一　布引の滝ハ寒吃四人

ゝゝゝ歌雛歌ゝゝゝゝ歌討ハゝゝゝゝ

さまつうん雲弱七方くくさきひ。ぞりん高松系門弟くくや。
仮橋とるつくくくろふかの弱七ず中兵とさよちゆんくくとる。
くのまとくくまんがーもくくくくくせで。ーつまめりくくくと
くぶんの中兵くくりがいくあくっぷやしたおえくくいくくくさ出来
ぞくろ。くんちくるいるゆ絵くるいくくくくく


とつてきうみ
やいうてんとうぶん
しまいく
やさくわいし

さあ母のかくさのがきいはるまへ泡をつけつてもらつてまぬ
をちぐ〳〵ぐいぢ〳〵の八とつて市兵衛さまよ。縄をうてい
ちし。則ひつとへサア今ぢや。此よ白状まつてとりと。
一ふもぐ〳〵どこまでもあるそ〳〵めしでも腐るし。コリヤ
ひとりとガとぬいてひつあり。ものはらぐいこまた。
あんの爲ちよアませいでね。コリヤてをよえーいふでもそつそう
ふなりまあるつ〳〵ぱげるりいふやイくこいつ下目めうあぐ
ようふどうし食ふちづさいりぬ所をもこあもじや。
るんのあるもおいるのとりあげてごいつあ無ちふ
ておるそ〳〵ふ。ぬくりぬ新をるとどやくてよいつるい
やいまぐ市川山で菊ちとあのころしてぎをのあとで
ろ〳〵ハはるまあ母の親ぢ。ぢやげるどいかげんふ

きてとくとまぎでまてさ〳〵のぐしぬ〳〵ひぐるるとてひ
りまぱ酒ちつもうそでハ。ぢひとあもすつちんさぬ
の婚ちあぐちし。の八めるうんぶ五へうせるぐぐいまく
よいてそるそ〳〵ぱ。れの義げ墨のの飯八熱ちあるとハつまり。
まく竹生酒ちつ〳〵ちも南産の乃ちう合石。ゆりう〳〵ハてこ七
く〳〵ぱんぱ。ぢりまあ。ア、ぐのちもかぢりまあぐるんでも
はるる〳〵ちるはちふち食の乃まりでもあるるる〳〵ぐあり
ませ〳〵ガとぬいてうあぐりサアらふのるるるくかるいうあ七
いてそるそ〳〵ぐるはぐるちがが新頭をつハるまがるろ〳〵。
ぐ門〳〵でもいてうんぐ老ぐまの力ざんまいつあるの八月ものと
ぐ〳〵ぐるるつぐぐ。ハとも乃まれまいるんぐちハ大郎乃月
よまひてハるまのであるふぐぐ〳〵もるるむるるる。

いくさの上手にいあくん形くはアムくこう。義たつこそ強をけ。でも
あをとこいやつ。世界ぐかくこれたる盗人ぞいつくれくてしえつみまこと
ぐひ。弱七子の縄るしさバ犯サアのぐまぬ石ぞや。たゞ者ゆふい
かしとこうてかくれど。源右衛つもこぐこをとこうて。サアぞし
こうてんせつてこうびまこぶすこをとうぐひてこ七ハどら
こもるく

第二 琵琶湖の くまこるハ石宗翁

音の石宗ハ富者こ法こ紅くこう。金張強玉元海てこ石
こる。ゆる時音の法をと振華れ時ゆこをれく親まぐこ
紅くこ。主宮第てこ第こあるゆ時親を弾琵のこの月の実月
あゞ強をとこ下世双くくこるこをこ世ゆけくこうくれつこ。
石宗こてゆ親ゆくこれくこ親さ行くこ石宗

第ゆよんひてゆこ義よりこの強むこうこんるゆこゆこ巴
こうこれよこ紅くとアくれくれ。行きもれをけくこをひ行ゆ。
強きぐもこ宗ゆ強ゆ親くまくこくこ。ゆこをこ強ゆこ
こハまくこるゆこゆこ。ゆこのもゆくゆこここのもゆこゆ
ふこのふり。父よ死こるをこゆこ親市で后
ここ紅よきこうゆ。強ゆこんとこ紅こくくこうもこんで強こを
ゆ。強のふくいくこんこるこれかここ行こ強こくこ強石せ
こを強ここ布引ゆこて義ゆをこここ。ゆこまくこ紅ひよ
事こ関強ここくこ。行面の強とハ押紅せんこゆこくく
たくんゆこゆもここまこあくハまゆ強よハ親のくここと弱こくゆ
押ゆのゆこあくここくけこゆこをゆくくこくこくこ強ゆ
ハこ紅よ親んのくこくここ。ゆくこのゆけこあゆこ行このこ義と

ぞ〜して、まつ〜じ。まつ〜ぢいつよ
ぢてやるぞ〜。心とうめまつこ、こ、
ぞ〜う義の雅ぢ、ぞ〜。陸ぞとうと、ぢ、ぢ〜。
かとう小伽の者も、ぞ〜川夜叉と、そろく清けー移りの
ぞ〜ぞ蓮ぞりと合のぞよいぞ。ぞやうぞ、ぞ〜ぞ。
ぞふ孫いりーとろ蛾〜ぞ。すそ引〜げぞ、ぞ〜ぞ。
いりーぞ。ぞ〜いぞのじやたぞ〜ぞよう、ぞ人ぞ、ぞ〜ぞとわ
むぞ。ぞうとうぞ、鹿が邪ぞよ。ぞ。ぬつと、ぞけー。ぞてその
ぞ〜ぞる義のぞ〜ぞよのつ〜りぞ。ぞ〜ぞ。ぞ〜ぞ。ぞ〜

書院こたのやり水よ枝とすまてる大木の松よりかりて陰き
所る。弱七はでいてるつけこそ。るのまき墨絵つゆぐるれ所で
くるん移んえろげと。後の柄ふぐく松とりのべて家うまど。
かるくくやるりひるんぷ。りぎんぶり泉めく松ぷくとその
まく庭とくづて梅のはさてにぐるこるくと。弱七おつけはや
ぐてるくこ。サアうぐくるえくる人めぐりてくまんぐ。えて
くるくもやとくれど。のまりふにくるぶりぐるくふまてれよ
くぷぐるる松よまぐりは。嬉とぐーえまぷこまはくぐけ
ふい家の系図拙くまぐくいやつ。見とめまくるふてきま
るきくたぶのうちくくるくふーぜんぐをせんと弱七い
奥へゆくよい鶴七弟くくらきるぐぷ。ほくぐ、いちくくるり
くくぷ、ぐんふくりまりて、ぐさおつくくるひ。ぐぐける事でい

ふいくくりまいまくまぬくうへあくつぐ
くるぬさはぐぐくくくぐはいまあんと
まくくちのであくくくくぐ松りひ付て侍る石焼鍋の
ぐくとばはそはかりけもまくはりて川ぷーかくぐを
くまくくくくくはいよ縄とやくくくるてぷくぐくゆ
くくるぬ

第三　芦川のいきえ八巡礼士

雪八せいくくて雪まくり雪八墨くて雪くり。ぷくそ
ぐくとくまくの松ぷ生橋ぷくりいく講義はのくり。ぷくら
の義とくくて長者の亟と押絵ぜんくくるしぐくぷの叶ぐで
くまくくり墨ぷの見くくるくり。海の楚生の焼絵と鑒林中
よ迎くくま。望武の鍬死くはくくりくぷぜんかくくるく雪く

さてゝあの
〳〵の通で
どぶりまると
まんまと
あのびへ
とび

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きやうとて。孫四のぶ清貞ぎしてこの一寺をとうんつくり。
ものしまつるのりきつくりこの寺をきつくりとれひ
ちりはひまつこのの名ふかめりつさはどつであつ。
きいをいあのうしみ花を布ぐつしこの如布部とやがごぢ
きてぐかくやりごとこはあるまいぐその黒布のようさるびてさ。
のんまりうをつこまけいてをまいしぞんどろきつこと
きてもふやのうり風いつやつぐ家の書よいつこてれり
まとぐそをきもまづひいふさまきとふぷとこつぐふるで
かのうり風ぐれりまとる。清瓶のやうんりこ。れりとう
かぐひきのびうり。盗んでまりあせふしかどこーかこまで
又大絹を屋の新下地はふをとこの事をりぷふりどこちぐつふ
どとりふこぬ高よぐどとく激いまてるりはどつやつ安房

らいるやこいたうんこ氣とうんてぷ今のこるのとりもりと
きろうろ。いつあてこきるふ老あぐぐやこかこ。俳ようこてこてん
こふつてぷろこぐろまばこつまやこいるんでも鼻ぐとんが
生まてこここぷんこうろこひきこうばこいこげ恵はのべ
こんふよいるはが時もあいぐりふどぐりませこきこべ
ふんぢを俳ふぐふをここんさこてこりこぷこまはふ俳
りこでどこりまこてきこんあもとりれもとくまりりのこい
ちやいぐりふどぐりはとずぐこふこきこいこてぷり
風ぐ屋ぬへりここませふぷまこりここきあくあり
こいふるこぷ布こんふつく習俗ぐこくものびり。晋の
強張こまも易ぐふるいまこあどこやふりて歌のやー
こここいりこここ部中のこせこんぐぬこ。とやこりぷあい

[illegible]

四之巻終

櫻品

林道春説
那波道圓譜
山崎闇齋辯

怡顔齋松岡玄達先生撰

合考　全部一冊

本文を[illegible]かるゝなり
[illegible]を[illegible]やゝく詳ら[illegible]
右[illegible]先[illegible]